

友人や先生方と共に 育ち合った日々。 淑徳魂は今も心に輝く。

強く根を伸ばした 愛知淑徳での10年間。

自分で見て、聞いて、感じ、考え、伝える
——生きる上で強い根となる数多くの力を
培った場所が、愛知淑徳です。校訓「質実
剛健」のもと、生徒はみんな何事にも熱心
で、先生方は生徒一人ひとりと真剣に向き
合ってくださいました。生徒同士、生徒と先
生方が「共に育ち合う」愛知淑徳の教育は、
「人は一人ひとりが尊く、それぞれに輝いて
美しい」という仏教精神にも通じると感じ
ます。学園祭、体育祭、球技大会などの学
校行事にクラス全員が団結して取り組み、
それぞれが自分の得意なことでの力を発揮
して、「人はみんなのために、みんなは
一人のために」という熱い雰囲気に含まれて
いました。私は中高6年間、演劇部に所属。
仲間と一緒に舞台を創り上げる楽しさを

知り、愛知淑徳大学文学部国文学科に進
学して演劇史を専門的に学びました。愛知
淑徳で過ごした10年間は、雨が降っても
風が吹いても負けない根を育てる日々だっ
たと、振り返ると感謝の気持ちがいっぱい
できます。

人と社会と向き合いながら 説教師の務めを果たしたい。

私は実家のお寺を継ぐよう祖父母や
両親から期待されて育ちました。しかし、
思春期の頃は後継ぎの立場にプレッシャー
を感じ、大学卒業後、ラジオ局に就職。「2年
間だけ」と父と約束し、アナウンサーとして
働きました。色々な場所へ取材に行き、年
齢も職業も多様な方々の話を聞いて、新
鮮な感動を覚える毎日。社会を広く見渡
すことができました。当時、私の心にあった
のは「なぜ世の中には差別があるのでしょ

か。どうすれば人間は互いに尊重し合っ
て生きられるのでしょうか」という問でした。
これは、恩師である高橋よしの先生と遠
藤和彦先生から高校時代にいただいた宿
題です。答えを探そうと社会に出た経験
は、僧侶となり、住職となり、祖父と同じ節
談説教の説教師を志す私の肥やしになっ
ています。節談説教とは、親鸞聖人の教
えをわかりやすい言葉や話し方で語り伝
えるお説教のことです。聞き手が興味を
持つように世相を織り交ぜて話すことが
大切。若い人にもお寺を身近に感じても
らい、よりよく生きるヒントを多くの人に
届けられる説教師をめざしています。

人はみんな、願われて生きていて、かけが
えない存在です。愛知淑徳で学ぶ後輩の
皆さんも、「淑徳魂」というたくましい根っ
こを心に育てながら、自分自身が願う明日
へと歩んでいってください。



説教師としての師匠は、節談説教の名手といわれた祖父。自分の身に照らして耳を傾けていただける、そんなお説教を心掛けています。



高校1年の夏休み、学園祭の練習でクラスメイトと記念撮影(祖父江さんは前列左端)。担任の麦島洋一先生は人望の厚い熱血教師でした。

真宗大谷派 徳風山 有隣寺 住職 祖父江 佳乃さん

愛知淑徳中学校・高等学校を経て、愛知淑徳大学文学部国文学科を1990年3月に卒業。ラジオ局でアナウンサーを務めた後、実家の有隣寺を継ぐため仏門に入る。2011年から住職。葬儀や法事などのほか、説教師として全国各地でお説教や講演会活動も行う。